

「日本内視鏡外科学会発足を機に、学会機関誌として「JSES」(ジェイセス)を創刊することになった。」これは、初代編集主幹で初代理事長の故出月康夫先生が、1996年2月に創刊の辞の冒頭にかかれた一文である。さらに「日本内視鏡外科学会は1990年に創立された内視鏡下外科手術研究会を母体として、1995年2月に新たに発足した学会であるが・・・」と続く。因みに創刊号の特集は「大腸癌に対する腹腔鏡下手術の controversy」で、前理事長北野正剛先生と私の論文も掲載されている。当時、会員数は2,000人程に急増し、満を持して機関誌の創刊に至ったのであった。あれから20年を経て本学会は会員数も12,000人を超え、世界一大きな内視鏡外科系学会へと成長した。既に北島政樹第二代理事長と北野前理事長のご尽力によって、英文誌ASESも発刊され学会のさらなるグローバル化も図られている。

今回、編集委員も一新しJSESはまた新たな一歩を踏み出した感がある。投稿数も毎年増え、採択率は30%程度と厳しさを増してきている。編集委員の負荷は重く、多忙な委員には誠に申し訳ないと思わざるを得ない。様々な分野の若きリーダーである編集委員は投稿する側の思いを汲み取るべく、真摯に査読してくれるメンバーであると確信している。内視鏡外科は手技の工夫とテクノロジーの革新によって、その進歩が成し遂げられてきた。多くの知恵や経験を共有することは、あらゆる領域で役に立ってきたに違いない。その意味で本誌は内視鏡外科の進歩に欠かせない存在であったのではなかろうか。多くの国内の学会が英文誌へと舵を切り、インパクトファクター獲得に成功している。日本消化器外科学会もいよいよ英文誌発刊の最終段階に入り今後の邦文誌の在り方について議論されている。日本内視鏡外科学会の国際化という意味では、ASESの発展も重要であり邦文誌の将来の立ち位置も真剣に議論していかねばなるまい。また、邦文誌を英文誌と同時に継続することは、経済的に難しくなってくる可能性もある。内視鏡外科が様々な疾患の標準的治療になるにつれ、次の20年は機関誌の在り様も、学会の在り様とともに変質していくに違いない。創刊の辞で故出月先生は、新しいテクノロジーを外科医療に導入するためには、4つの条件が満たされることが前提であると述べている。即ち(1)有用性と安全性の確認、(2)両者が従来法より優れていること、(3)術者がテクノロジーをマスターすること、(4)経済性があること、である。そのためpeer reviewに基づくJSESが生まれ、その理念は脈々と受け継がれてきた。これから雑誌の形態が時代とともに変わることがあったとしても、この理念を踏襲していかねばなるまい。

(渡邊昌彦)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第21巻 第2号) 2016年3月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1部) 定価: 本体2,800円+税 *会員には毎号送付されます。

2016年 年間購読料: 冊子版16,380円+税, 電子版/個人16,380円+税, 電子版/共有18,840円+税, 冊子+電子版/個人19,380円+税, 冊子+電子版/共有21,840円+税(配送料: 医学書院負担) *会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会(代表: 渡邊昌彦)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル

日本コンベンションサービス株式会社内

☎03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses@convention.co.jp(担当: 野上)

http://www.jses.or.jp

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2016, Printed in Japan

発売: 株式会社医学書院(代表: 金原 優)(本誌担当: 水野, 安部) http://www.igaku-shoin.co.jp/

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23(振替口座00170-9-96693番)

本誌編集室直通 ☎03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802/E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

・本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は日本内視鏡外科学会が保有します。

・JCOPY (社) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社) 出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

●原著

Mini Loop Retractor II®を用いたグローブ法

単孔式腹腔鏡下虫垂切除術 中里健二・他 群馬県済生会前橋病院外科・腹腔鏡外科センター

●症例報告

Vater 乳頭近傍の神経内分泌腫瘍に対して腹腔鏡下十二指腸部分切除を行った

1 例 長久吉雄・他 倉敷中央病院外科

単孔式腹腔鏡下手術を施行し得た食道アカラシア・

横隔膜上食道憩室の 1 例 加藤航司・他 KKR 札幌医療センター斗南病院外科

Reduced port surgery による腹腔鏡下腓体尾部切除術を施行した

2 例 紙谷直毅・他 奈良県総合医療センター外科

直腸癌と前立腺癌の重複癌に対し一期的腹腔鏡下手術を

施行した 1 例 松田睦史・他 慶應義塾大学医学部一般・消化器外科

TAPP 術後に吸収性有棘連続縫合糸により小腸イレウスを呈した 1 例 小林壽範・他 宇治徳洲会病院外科

力士に対する腹腔鏡下虫垂切除術の経験 東園和哉・他 同愛記念病院外科

胃内手術・内視鏡合同手術にて切除した食道胃接合部 GIST の 1 例 貝羽義浩・他 仙台市立病院外科

結腸吻合部狭窄に対するバルーン拡張時の穿孔を腹腔鏡および

内視鏡補助下に自動吻合器で閉鎖した 1 例 今藤裕之・他 名古屋徳洲会総合病院外科

超音波内視鏡下穿刺吸引法が術前診断、術式選択に有用であった

腹腔鏡下尾側膵切除術を施行した膵 solid-pseudopapillary

neoplasm の 1 例 亀井敬子・他 近畿大学医学部外科肝胆膵部門

経肛門の内視鏡下マイクロソーゼリーによる直腸全層切除術を

施行した直腸 GIST の 1 例 中木正文・他 メディカルトピア草加病院外科

開腹スリーブ状胃切除後の難治性逆流性食道炎に対して

腹腔鏡下修正手術を要した 1 例 高木隆一・他 東邦大学医療センター佐倉病院外科

思春期に胸腔鏡下切除した無症候性 congenital cystic

adenomatoid malformation の 1 例 内田 巖・他 国立国際医療研究センター病院呼吸外科

●手術手技

腹腔鏡観察下腹壁神経ブロックとその有用性 宇田裕聡・他 一宮市立市民病院外科

但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。